

【派遣学生報告①】

イギリス セントラル・ランカシャー大学

(2016年度交換留学 秋派遣 期間：2016年8月～2017年5月)

University of Central Lancashire, UK

観光学部 嶋川 久瑠実

Kurumi Shimakawa

University of Central Lancashire 通称 uclan は 1828 年に設立された、イングランド北西のプレストンに位置する国立大学です。学生教職員総数 38,000 人、100 を超える国々から学生が集まる国際色豊かな環境です。

大学が位置するプレストンは学生のまちで、徒歩圏内にシティセンター、レストラン、駅、公園、映画館があり学生生活を送るにはよい環境です。電車でマンチェスターには 40 分、ロンドン、エディンバラには 2～3 時間で行くことができます。

私は 2016 年 8 月の 1 ケ月、大学付属の語学学校に通い、同年 9 月から 2017 年 5 月まで留学生向けに開講されているインターナショナルビジネスコースで勉強しました。

《学習》

インターナショナルビジネスコースでは国際的な環境、異文化のコンテキストにおける経営を学びます。クラスメイトにはヨーロッパと中国からの学生、日本人は 10 名ほどでした。このコースの特徴としては他大学で 2 年学び、最終学年を uclan で勉強することで、学位をとることができます。つまり、和歌山大学とのダブルディグリーが可能です。

私は必修科目の「インターナショナルビジネスコミュニケーション」、「ビジネスマネジメント」、「リサーチメソッド」。選択科目の「イベントマネジメント」、「観光」を履修しました。加えてセメスター1 に現地の学生に交じって人文地理学の授業を聴講させてもらいました。授業は各授業 3 時間で、講義とディスカッションで構成されています。評価方法は主にレポート、プレゼンテーション、テストです。

なかでも印象に残っているのが、観光の授業です。基本的な理論は日本で学んだものと大きな違いはないのですが、社会的な違い、例えば、都市の形成の違い、休暇の取り方や考え方、社会階級への考え方が日本とは全く異なり、さらに観光の知識を深めることができました。授業では様々な国からのクラスメイトと自国の観光地や観光のスタイルについて議論する場があり、観光への考え方の視野が広がったと思います。

またリサーチメソッドのクラスでは 7 千字程度の卒業論文を執筆します。私はマンチェスターチャイナタウンのイメージについて研究をしました。たくさんの課題と限られた時間

のなかで調査をするのは大変でしたが、アンケートやチャイニーズコミュニティへのインタビューなど、たくさんの方々に協力してもらったのが思い出深いです。

私がイギリスの大学で習得したのはビジネスの知識だけでなく、学ぶ姿勢だと思います。イギリスでは授業時間が少ない分、自主学習が重視されています。セメスター2の最初まで、レポートを書くにしろ、文献の探し方、引用の仕方、論じ方などわからないことだらけで戸惑いました。また自分の専門分野でないビジネスを英語で一から学ぶのも時間を要しました。そこで、論文の書き方を教えてくれるワークショップに参加したり、教授に聞いたり、時には文献だけでなく簡単に理論を説明してくれている動画などのインターネットのソースを使用してどうにか理解しようと努めました。

私が大切にしていたのは、自分がどうしたら課題に向き合えるのか自分に合った環境やスタイルを探すことです。学歴社会のイギリスでは大学の成績が就職にも影響することもあり、熱心に勉強している学生の姿が印象的でした。加えて、院生の友達からも刺激を受けたように思います。あまりに多い課題を（友人たちと課題地獄と呼んでいました）1人でしていると精神的にきつく気持ちが乗らなくなるので、モチベーションの高い友達と課題をするようにして少しでも勉強の習慣をつけるようにしました。さらに毎日課題ばかりしていても集中力が続かないので、バドミントンの練習や友達と公園やカフェに行くなど気分転換をするようにして、課題とのバランスをとっていました。

《生活、休暇中の過ごし方》

わたしは大学の敷地内にある寮でイギリス人とキッチンとバスルームが共有のフラットに住んでいました。イギリスで一番楽しかったことといえば、イベントや課題が終わるたびに友人とお互いの家で、ホームパーティをしたことが一番に思い出します。学生はほとんど徒歩10分圏内の大学の敷地に住んでいて、近しい友人たちは家族のような感覚でした。

長期休暇中にはマンチェスター、ロンドン、湖水地方、エディンバラ、ヨークなどのイギリス国内やスペイン、ポーランドに旅行に行きました。

《部活》

私はバドミントン部に入りました。週4日練習があり、当初は勉強と両立できるかが心配だったのですが、他校に試合をしに行ったり、クリスマスパーティやスポーツボールなど現地の学生とたくさんの経験ができました。またイギリスの学生団体の運営の仕方や学生の文化を知ることができました。

《日本とイギリス》

Uclanには日本語学科があり日本に興味を持っている学生がたくさんいます。私は日本語学科のアシスタントのアルバイトをしていて、そこで茶道、着付け、和歌山大学での高野七口

活性化の活動など自分の言葉を通して日本文化を伝える機会があり、現地の学生に喜んでもらえてうれしかったのを覚えています。海外経験者からよく聞く話ですが、自国をほかの視点でみることで日本のよい部分を再発見したり、逆に世界的にまだまだ考え方や制度が遅れている部分を知ることができました。

《最後に》

ずっと夢だったイギリス留学を実現するために大学の先生やスタッフの方や留学経験者にお話を聞いたり、国際イベントに積極的に参加するようにしました。自分の目標を実現するにはも日ごろの積み重ねと、どうしても叶えたいという気持ちを持って行動することが大切などではないかと思います。留学先でも、慣れない環境で、あまりにたくさんの課題に向き合うのは想像以上に自分が試されました。しかし、今後困難に立ち向かうことがあっても、心のどこかでこのイギリスでの生活を乗り越えた自分が支えや自信になるのではないかと感じています。このわたしの人生にとって宝物になる経験ができたのも家族、友人、先生方、IERのスタッフのみなさんの支えのおかげです。この機会を与えてくださったことに心から感謝しています。



キャンパス



湖水地方